

「チームの中心として勝利に貢献」 「1年目からレギュラーを」



Jリーグ内定5選手を発表

サッカー部が記者会見

サッカー部が12月3日、多摩キャンパスのCスクエアで記者会見を開き、2020年シーズンからのJリーグ入りが内定した5選手を発表した。5人は中央大学での4年間を振り返るとともに、「チームの中心として勝利に貢献したい」「1年目からレギュラーを取りたい」などと抱負を語り、プロになる決意を新たにしていた。

会見場にそろいのスーツ姿で登場したのは、松
本山雅FCに加入が内定した三ツ田啓希選手(経済
4)、ヴァンフォーレ甲府に内定の中村亮太朗選手
(経済4)、徳島ヴォルティスの安部崇士選手(商
4)、ツエーゲン金沢の加藤陸次樹選手(商4)、

ファジアーノ岡山の野口竜彦選手(文4)の5人。

5人はまず、Jリーグでプロ生活をスタートする
決意、自身のセールスポイント、加入するチームの
特長などを一人ずつ口にした。

三ツ田選手

「大学3年までトップチームで出
場機会がなかった中でオファーをい
ただいた。身長190センチの高さか
らのヘディング、左利きのキックが持
ち味です」

安部選手

「声を出ることが大きなセールスポ
イント。サッカーに夢中になれるのが
僕の武器です。ヴォルティスのパス
サッカーに魅了されました。1年目か
らレギュラーを取り、力になりたい」

加藤選手

「攻守にわたるハードワークなど
がセールスポイントです。パワフルな
魅力あるサッカーをするツエーゲン
金沢は自分にとって良いチーム。監
督の求めるサッカーに応えたい」



中村選手

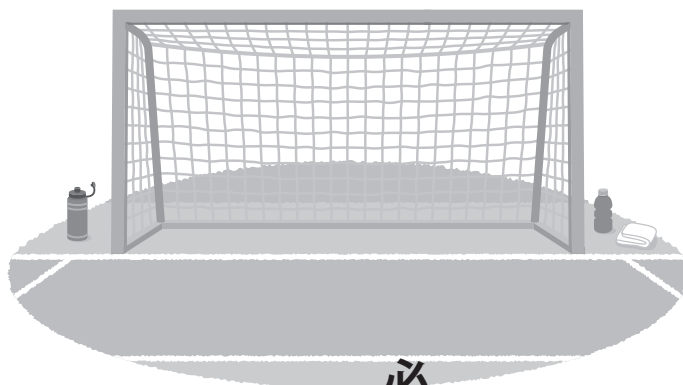
「2月のキャンプに参加して雰囲気、プレースタイルが合うと感じました。僕はロングボールやパスが得意。中心選手として勝利に貢献できるよう頑張りたい」

野口選手

「左利きのシュート、クロス、パス、ドリブルが僕の特長。プロは意識が高く、努力を欠かさない。それを超えて日々努力して生き残っていけるよう頑張りたい」

学生競技としてのサッカーを経験したことについては、「多くの人に出会い、さまざまなプレースタイルの人がいることも知った。新しいサッカー観を得ることができた」(中村選手)、「フィジカルやスピード面でのレベルアップを実感しています」(加藤選手)などと、4年間を振り返っていた。

最初は少し緊張気味に受け答えしていた5人だが、「ヒルトップの学食の勝負飯は何でしたか」などの回答では笑いも起きた。内定先のユニフォーム姿になると、カメラマンの注文に笑顔で応じるなどすっかりリラックスしていた。



たゆまぬ努力+周囲の応援

加納樹里サッカー一部部長
(文学部教授)

前年に引き続き、5人をプロに送り出せることは誇らしくうれしい。5人には共通点があり、たゆまぬ努力を続けてきたことが一つ。そして5人とも、大学でともに研鑽した仲間、ご指導いただいたスタッフ、小中高校のサッカー指導者の方々、何よりもご家庭の支援があって今日に至りました。これを忘れずに新たなチャレンジをしてください。

必ずチームのプラスになる

佐藤健サッカー一部監督

5人を戦力として獲得していただいたチームに感謝したい。5人には必ずやチームにプラスの力をもたらすような、まじめさ、戦う力、集中力がある。(関東大学)リーグ戦後期でも、その力を本当によく出してもらった。(Jリーグ入り後も)ぜひ注目してプレーを見てほしい。



中央大学サッカー部 5選手の進路

名前	学部	身長/体重	ポジション	進路内定先
三ツ田啓希	経済4	187/83	DF	松本山雅FC
中村亮太郎	経済4	179/70	MF	ヴァンフォーレ甲府
安部 崇士	商4	180/74	DF	徳島ヴォルティス
加藤陸次樹	商4	178/69	MF	ツエーゲン金沢
野口 竜彦	文4	175/72	FW	ファジアーノ岡山

パネリストを務めた3人。左から吉田瑠奈さん、高橋亜実さん、高橋彩さん



就職はゴールでなく スタートライン

「女子学生応援セミナー」

WINGの会

女子学生の就職活動をサポートしようと、中央大学OGでつくる学生支援団体「女性白門会」が昨年11月16日、第25回WINGの会「女子学生応援セミナー」を多摩キャンパスで開催した。講演と内定学生の体験談から大きな刺激を受けた学生たちは、真摯に自分と向き合い、就活に挑むことを誓った。

「ガールズ、ビーアンビシャス！」

金子久子さんの第1部講演を聴いて

雇用流動化 → 変化に対応する力が必要

講師の金子久子先生から、ご自身の人生で得られたことを踏まえ、私たち女子学生の就職活動についてレクチャーしていただきました。最も印象に残っている言葉は「今後、1つの会社で長く働くことが難しくなっていく中では、変化に対応する力が必要」というものです。

私は就活をしているとき、「一生働く会社を決めるんだ！ここで頑張れば、この先安定して生きられるはず」と

思っていました。金子先生の言葉を聞いて、「就活をいくら頑張っても、その先で成長のための努力ができなければ、充実した人生を過ごすことなどできない」と感じました。今回の経験を踏まえ、今後は就活で内定を得ることをゴールとして活動するのではなく、就職先で働き始めるというスタートラインに立つための就活だという意識を持って活動していきたいです。



中村真由
(経済学部3年)

チャンスには自ら手を挙げる

金子久子先生の講演を聴き、女性のキャリアは結婚・育児と切り離して考えるのは難しいということを改めて強く意識しました。金子先生自身が仕事と結婚・育児の両立を経験され、2つの関連についても詳しく説明してくださいました。金子先生が自分のやりたいことを追いかけて実現している話を聞いて、とても刺激になりました。

就活・就職に対してはもちろん、これからの人生で力になるだろう言葉もたくさんいただきました。「チャンスを与えられたら断らずに自ら手を挙げる」「100%できなければいけないと思わない」などです。私は2年生なので、本格的な就職活動はまだ先になりますが、この講演を忘れずに臨みたいと思います。

高橋陽奈
(文学部2年)



□ WINGの会

中央大学卒業生で組織する学員会で唯一の女性支部である「女性白門会」が1980年代以降、女子学生の就職活動を支援する目的で発足させた。今回のセミナーで25回目の開催。OG組織と

大学キャリアセンター共催による女子学生支援のこうしたセミナーは他大学を含めても例は少ないという。

第2部は内定者

パネルディスカッションと質疑応答

自分の“軸”の確立が大事

各業界の内定者の方のパネルディスカッションは、業界が違うため、質問に対してさまざまな回答を聞ける良い機会だったと思います。私が一番印象に残ったのは、「就活中に譲れなかったこと」に関する質疑です。

数ある質問の中で、パネリストの方々が一番はっきりと答えていらっしやったと思います。それほど、就活には自分の中の軸が大切であるということを感じました。また、その軸に関する

知識を備えておく必要があると思いました。私は就活を控えた身にもかかわらず、なにからしたらいいかわからない状態だったので、とりあえず自分の好きなものや、やりたいことの整理から始めていくべきだとわかりました。

今までやり方が全く分からず、自然と敬遠していた就活ですが、パネルディスカッションに参加して就活へのハードルを下げられたと思います。

大塚萌
(文学部3年)



インターンシップでは明確な意思、目的を

私が最も心に残ったのは、「インターンで得られるものよりも、自分の経験やエピソードは何にも代え難いものである」という言葉でした。私自身、大学3年生になり、何か就活を始めなければと夏休みに複数のインターンシップに参加しました。もちろんインターンシップでしか得られない経験をすることができましたが、同時にサークルの練習や合宿など犠牲にしたものも多かったです。

このディスカッションを通して、私は今まで、「自分は就活を他の人よりも早く始めている」という優越感のため

にインターンシップに参加していたことに気が付きました。自分がインターンシップに振り回されるのではなく、明確な意思や目的を持つことでインターンシップという機会を上手く利用しなくてはならないと感じました。

インターンのみならず、自分の全ての行いに意味を持たせることの大切さを学びました。それによって自分の行動に責任を持つことができるからです。この講演会で得たことを就活だけでなく、今後の人生に活かしていきたいと思います。

岡田菜々子
(法学部3年)





セミナーで熱心にメモを取る女子学生たち

第25回WINGの会 「女子学生応援セミナー」概要

日時：2019年11月16日午後1時半～4時半
会場：多摩キャンパス3353号室

第1部：講演

「ガールズ、ピーアンビジャス!
～人生100年時代の女性のキャリア」

講師：金子久子さん
(ランスタッド株式会社取締役チーフピープルオフィサー)

第2部：パネルディスカッション

「内定女子学生による就活のリアル
～後輩へのアドバイス」

パネリスト：

吉田璃奈さん(文学部4年) 内定先：日本航空(客室乗務員)

高橋亜実さん(法学部4年) 内定先：富士通

高橋 彩さん(法学部4年) 内定先：東京都

講師紹介



金子久子さん

総合人材サービス業のランスタッド株式会社取締役チーフピープルオフィサー。1985年に慶応大卒業後、外資系銀行に就職。結婚後いったんは育児に専念したが、フリーランスの通訳やNPO活動を経て、2004年に社内通訳者としてアクサ生命に入社、2014～16年に早稲田大MBAスクールで学び首席で卒業。昨年6月から現職。